

# 温暖化 高山環境へ影響は?



伊那

## 「温室」設置 植物の変化調査

中央アルプスの信大農学部西駒演習林(伊那市)で、地球温暖化が高山環境に与える影響を調べる実験に、信大と筑波大が共同で取り組ん

でいる。昨年9月、板で囲った「温室」10基を標高約2600m地点に設置。1年が経過し、教員や大学院生らが30日まで3日間、実験地で温室内の植物の変化を調査した。

実験は、信大、岐阜大、筑波大が日本アルプスなど「中部山岳地域」で気候変動の実態や影響を調べる連携事業の一環で、昨年度から開始。西駒演習林では、信大農、理学部と筑波大菅平高原実験センター(上田市)の

「温室」の囲いを取り払い、植物の状態を調べる教員ら

信大・筑波大・中央ア演習林で実験

研究グループが共同で進めている。同センターの田中健太助教によると、実験地は亞高山帯から高山帯に移行する場所に

当たり、100mほどの標高差でダケカンバなどの高木から低木のハイマツへと植生が大きく変わる。「気候変化が

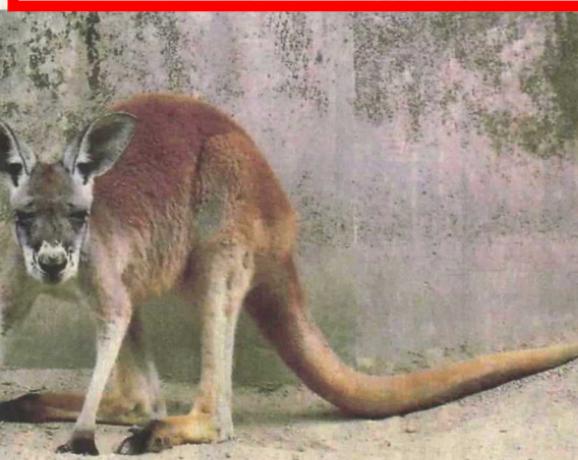
植物の成長や種類に反映されやすい環境で、国内では実験例が少ない」という。

温室は、植物が生える1m四方を高さ約2mのポリカーボネート製の板で囲い、温度や湿度の計測器を取り付けた。雨や雪の影響を受けるよう、上部は開放してある。10基のうち9基は、積雪や雪崩の影響を比較するため、冬季は囲いを取り外す。

今回は、木からの落雪でつぶれた1基を除く9基で、

信大農学部付属アルプス圏フィールド科学教育研究センターの小林元・准教授による

データを集めていくことで、温暖化による高山帯の環境変化の詳細な予測につながる」としている。



「お嫁さん「マロニー」

動物園 18日から一般公開